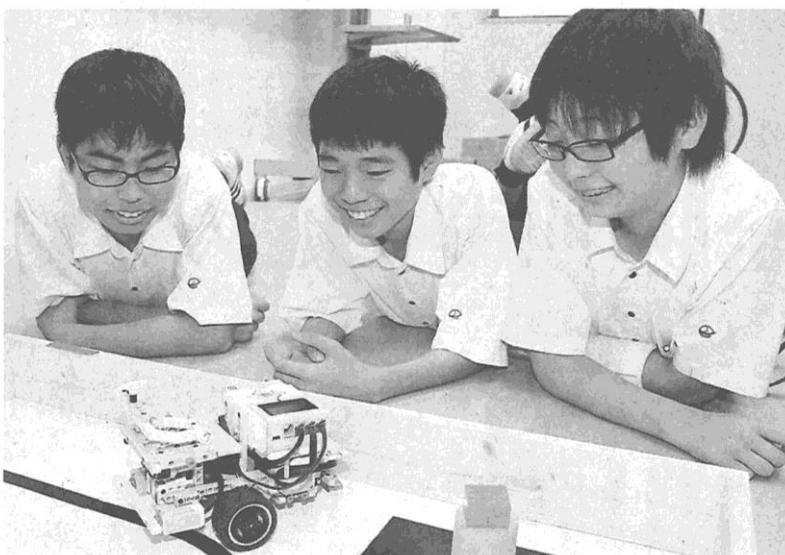


諏訪東京理科大（茅野市）で8月下旬に開かれた「ワールド・ロボット・オリンピアード（WRO）ジャパン」の長野予選で、松本秀峰中等教育学校（松本市）の2年生3人のチームが「ミドル競技中学生部門」で初優勝を飾った。プログラミ

ングデータで動く車型の自走式ロボットが課題をこなす正確性やタイムなどを競う大会。17日には東京で全国大会があり、3人は「楽しんでやって、いい順位を狙いたい」と意気込んでいる。

（松本貴明）

松本秀峰中等教育学校の2年生3人



長野予選で優勝したロボットを見つめるメンバー
（左から）松本遼さん（四年）、小林幸太郎さん（三年）、百瀬公多朗さん（三年）。市販のキットで作った自走式ロボットにセンサーなどを搭載し、開発したプログラミングによって動く。

競技は、センサーが色や障害物を認識してコース上を移動したり、ブロックを指定された場所に運んだりして点数を競う。三人は放課後にプログラミングやロボット作りに取り組み、楽しみながら技術を磨いていく。

自走ロボット大会 長野予選で初優勝

あす東京の「いい順位を狙いたい」

指導している瀬川伸教諭（四〇）は「課題があると自分たちで考え、解決しようと努力している。全国大会に出場できなかつたチームの分も頑張ってほしい」と期待している。

長野予選では一回の競技が実施され、三人は出場した十一チームの半数以上がゴールできなかったが、二回目に見事満点を獲得するなどした。

小林さんは「自然体で無欲にやれたのが良かったのかな」と振り返り、百瀬さんは「全国大会は県大会とはレベルが違うと思うが、表彰台を目指して頑張りたい」、山本さんは「できれば優勝を目指したい」と話した。